

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	福井大学
事業名	免疫・アレルギー・感染症領域の高度な臨床・研究能力を有する医師養成事業
事業責任者	福井大学医学部長 藤枝 重治
事業の概要	
<p>医師の働き方改革と教職員の人員削減は、地方大学に深刻な研究力低下を招いたことから、教員と大学院生等が一丸となって研究に取り組む新しい研究力強化体制と研究医養成体制の整備が必要不可欠である。本事業では第4期中期計画で中核に位置付ける「免疫・アレルギー・感染症」領域に独立した二つの研究ユニット（特命教授）を新設し、福井大学医学部の活力中枢である Under-40 club から研究医を集め、この領域の研究グループと新設研究ユニットに大学院生 RA と医学生 SA を配置する。また、5、6年生医学カリキュラムに先端的臨床研究プログラムを新設し、診療参加型実習に AI 模擬患者の導入、シミュレーションスペシャリストとしての大学院生 TA の雇用、さらに Under-40 club による医行為・医療面接の充実を図る。これらにより、研究力と研究医育成力が持続的に強化される体制を構築し、地方大学の研究力強化モデルを示す。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○事業協力機関として、海外の施設が3つ含まれており、優秀な成果を上げた若手研究者、大学院生および医学部生に、海外の研究室訪問や国際学会発表の機会を与えることとしている。</p> <p>○免疫・アレルギー・感染症領域に独立した二つの研究ユニットに40歳以下の研究医を集めるとともに、大学院生 RA と医学生 SA を配置することとしている。当該領域の診療科では、新たな診断・治療法の開発や、国際共同研究、医薬品の開発につながる研究成果を挙げており、国内外の大学・研究所・製薬会社との共同研究も複数実施中であることから、実現可能性が見込まれる。</p> <p>○5、6年生のカリキュラムに先端的臨床研究プログラムを新設し、診療参加型実習に AI 模擬患者の導入、シミュレーションスペシャリストとしての大学院生 TA の雇用を進めることとしており、また、TA によるシミュレータ医行為経験率の上昇も期待している。</p> <p>○医学部附属病院医学研究支援センターの傘下に臨床研究教育プロジェクト・チーム、プログラム評価チームを新設する予定であり、評価チームにて教員の評価・改善指導も行い、優れた業績を上げた特命教員のテニユア教員採用も予定している。</p> <p>○現医学部長が全体を統括し本事業を推進する体制を評価する。</p> <p>○本事業を地方大学における研究教育力の活性化策、研究大学としての生き残り策として位置づけており、意欲は評価できる。</p> <p>●最終的に育成される人材像について、より明確な記載が望ましい。。</p> <p>●本事業が医学部全体にもたらす波及効果についても言及してほしい。</p> <p>●医学系大学院生数の増加に直接効果がある取組が具体的ではない。</p> <p>●「AMED 事業の研究班もしくは厚生労働科学研究費補助金の難治疾患政策研究事業の代表研究者として、All Japan 体制の研究班を構築する。」とあるが、具体的な取組が読み取れない。</p> <p>●研究を主導する臨床研究を行う大学院生の位置づけの記載が乏しい。</p> <p>●TA の対象が免疫・アレルギー・感染症領域にとどまるのか、全領域を対象とするのが不明。</p>	